

百折不撓

2020

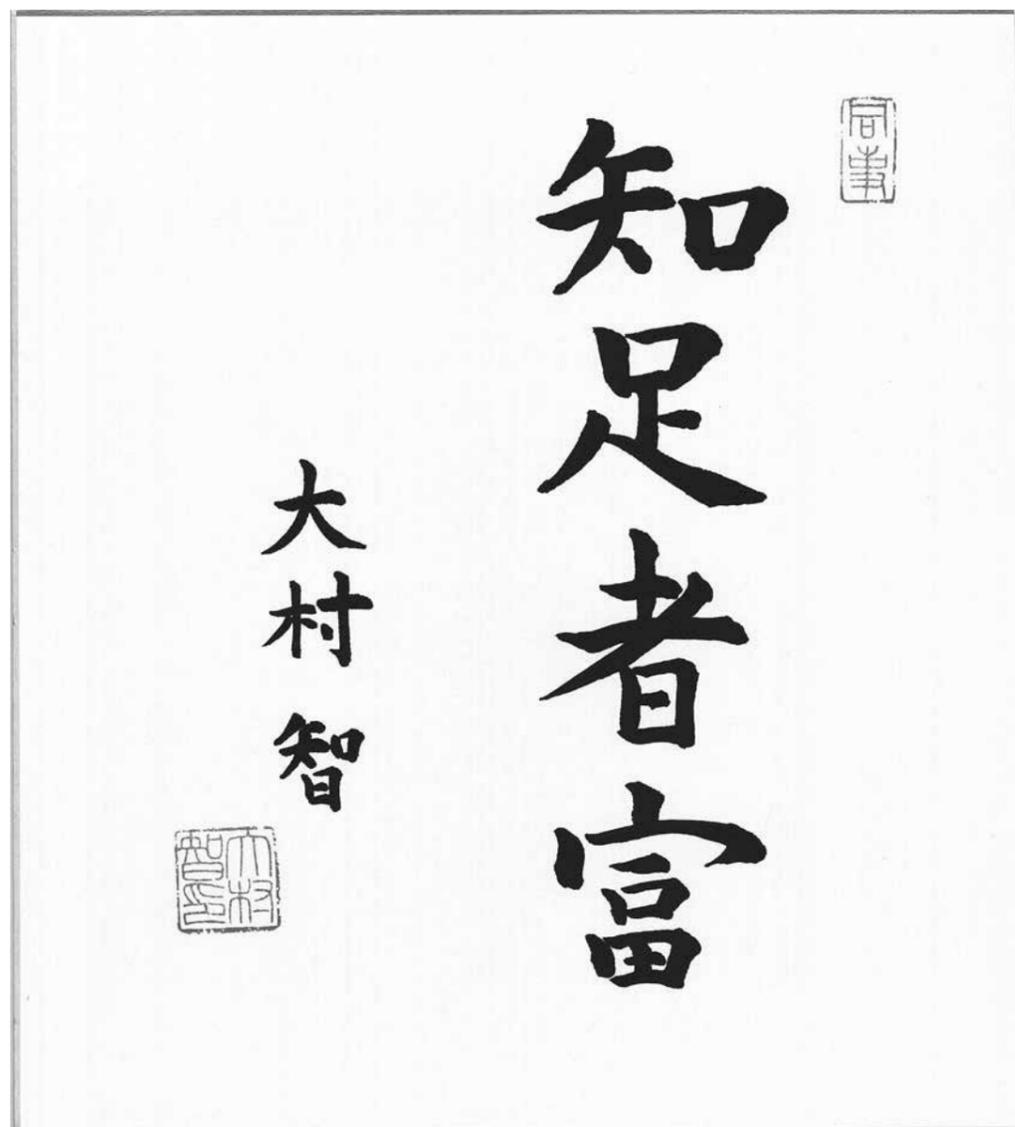
令和2年度
葦崎高等学校
同窓会記念誌



絆

— 我らの明日に乾杯 —

NIRASAKI HIGH SCHOOL OB & OG's MEMORIAL MAGAZINE



「足るを知るものは富む」

大村智博士から私たち第34回卒業生へいただいた言葉

「知足者富」 老子より

表紙に寄せて

テーマの「絆」はこの仲間とのつながりを大切にしていこう、という思いのもと、またサブテーマの「我らの明日に乾杯」は私たちが高校3年生の時の蕪葉祭のテーマであります。

新型コロナウイルスの感染拡大を食い止めなければならないという暗闇の中、同窓会事業の実施が中止かについて仲間と共に悩む日々。支えてくれたのは、同窓生・同級生・地域・母校との絆であった。お互いを尊重し思いやり支え合う絆。この絆にどれだけ救われたら。感謝の言葉しかありません。

明るい明日に何の疑いも迷いも無く仲間と「乾杯」していた私たち。しかしこのコロナ禍では心の中で「乾杯」を交わすことしかできません。いつの日かこの絆を持った仲間たちと声高らかに「乾杯」できる日を願いながら、今自分にできることを積み重ねていきましょう。その先に必ず新しい明日が待っていてくれると信じて。

源為朝像（為朝神社）

源為朝は身長2mを越え強弓の使い手で、剛勇無双とうたわれた平安時代末期の武将である。その武威によって疫病などの悪疫を退散させることを願い、江戸時代後期に祀られたものである。為朝神社本殿と為朝像は平成16年に市指定文化財に指定され、現在に至る。

所在地：山梨県韮崎市神山町北宮地 制作年代：天保12年（1841）5月25日

制作者：滝沢定右衛門藤原直正（信州松本上東町）*平成7年に柳本伊左雄監修、平出光彦が修復を実施

所有者：武田八幡宮 写真提供：韮崎市教育委員会

大村智博士の寄稿文にもありますように、江戸時代その剛勇さから、疫病（流行り病など）除けとして広く信仰があり、コロナ禍における疫病退散を願い表紙としました。

あいさつ

同窓会会長	進藤 中	5
葦崎高校校長	飯田 春彦	6
同窓会総会実行委員長	野口 正人	8

恩師寄稿

学年主任	中山 眞次	9
三年一組担任	手塚 和義	10
三年四組担任	坂本 仁	11
三年五組担任	浅川 節子	12
三年六組担任	保坂 博文	13
三年七組担任	金丸 一明	14

◎思い出の寄せ書き

.....	16
-------	----

特集Ⅰ「絆」同窓生

葦高第 四回卒	大村 智	17
葦高第 十八回卒	仲澤 昌郎	18
葦高第二十八回卒	雨宮 正英	20
葦高第 七十回卒	加賀谷 湧	22
葦高第三十四回卒	古屋 浩	24
葦高第三十四回卒	霜村かおり	26
葦高第三十四回卒	小池恵美子	28

◎卒業回数年齢早見表

.....	30
.....	32



葦崎高等学校同窓会会員各位には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、平素より同窓会事業に対しまして、多大なご支援ご協力をいただいておりますことに、心から御礼申し上げます。私は昨年九月十五日に開催されました第九十七回同窓会総会において、横内正明前同窓会長の後任として、その任を引き継がせていただきました。それから僅か七か月後の去る四月二十一日、思いもよらない横内前会長ご逝去の報に接し、あまりに突然のことに、驚きと深い悲しみを禁じえませんでした。

同窓会を代表して、今日までの多大なご功績に深甚なる敬意を表すとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

さて、本年三月以降、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が全世界で猛威を振るう中で、多くの会合や催しを中止せざるを得ない状況が続いています。本年度同窓会の事業も例外ではなく、既にご連絡申し上げました通り、親善ゴルフ大会、親善招待サッカーに続き同窓会総会・懇親会も中止することといたしました。

テーマ『絆〜我らの明日に乾杯〜』の下に、諸事業の準備

特集Ⅱ「絆」葦高は今

.....	33
-------	----

高いレベルの文武両道	教頭 伊藤哲也	34
コロナ禍におけるオンライン授業について	進路指導主事 手塚清孝	36
「距離」をとるということ	生徒会指導主任 松田頼樹	38
今年でなければ学べないこと	生徒会長 矢吹輝実	40

足跡〜活動記録〜

.....	41
-------	----

令和二年度総会資料

令和元年度会務報告・事業報告	44
令和元年度同窓会一般会計決算書	45
令和元年度同窓会特別基本金会計報告	46
令和元年度同窓会収支決算報告	47
令和二年度同窓会事業計画	48
令和二年度同窓生一般会計予算書	49
令和二年度同窓会特別基本金会計予算書	50

同窓会協賛者・寄付者

.....	51
-------	----

令和二年度葦崎高等学校同窓会実行委員会名簿

.....	52
-------	----

第三十四回卒当番幹事

.....	53
-------	----

編集後記・編集委員

.....	56
-------	----

を精力的に行っていたいでした。本年度当番幹事・第三十四期生の皆様、そして、同窓会事業への参画を楽しみにしていただいていた会員の皆様には大変申し訳なく思っておりますが、皆様への新型コロナウイルス感染症の回避を第一に考えての苦渋の決断でありましたので、なにとぞご理解いただきたいと存じます。

なお、中止に伴い、当番幹事の皆様の呼びかけにより教育振興会への助成目的の募金を実施いたしましたところ、多くの皆様のご賛同をいただくことができました。ご協力、誠にありがとうございました。

大正十一年に創立されました母校葦崎高等学校は、二年後の令和四年、校訓『百折不撓』の下に創立百周年を迎えます。既にご案内申し上げておりますように、同窓会では、百年の歩みを振り返るとともに、現役生の学業及び部活動などに必要不可欠な備品・設備を寄贈すべく、記念事業を計画しております。

充実した環境の中で、ノーベル医学生理学賞を受賞された大村智先生に続く有為な人材が育っていくことは、すべての同窓生が等しく願うところであり、そのための物心両面での支援が私たちの大切な使命だと思っています。

つきましては、葦崎高等学校創立百周年記念事業の一環としてお願いしております母校への寄付(目標額三千四百万円)につきまして、是非ともご協力くださいますよう、改めてお願い申し上げます。

結びに、同窓会会員各位並びに葦崎高等学校教職員・生徒の皆様全員が無事このコロナ禍を乗り越え、ますますご活躍されますことと、葦崎高等学校の発展を心からお祈り申し上げます。挨拶とさせていただきます。



校長

飯田 春彦

Haruhiko Iida

新型コロナウイルス感染拡大により、令和二年度葦崎高等学校同窓会総会・懇親会が中止と決定されたことにつきましては、誠に遺憾でございます。準備を進めて来られた野口実行委員長をはじめ当番幹事の皆様の心中をお察しすると、忍びない気持ちになりますが、これまでの御尽力に対しまして、心より御礼申し上げます。また、同窓生の皆様には、平素から本校の教育活動に深い御理解と物心両面にわたる御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

葦崎高校は、本年創立九十八年を迎えました。令和四年に、創立一〇〇周年となることを踏まえ、平成四年から二十八年間着用した制服を、本年度の新入生より一新いたしました。このことにより、一〇〇周年記念式典では、全生徒が新制服に身を包んで臨み、新たな一歩を踏み出すこととなります。これまでに本校で学んだ同窓生は三万一千人を超え、地域をはじめ、国内外の政治経済、教育文化、スポーツ等の幅広い分野で活躍する人材を輩出して参りました。校訓「百折不撓」の精神のもと、文武両道を貫き、諸先輩方が築きあげて

北海道大学、筑波大学、信州大学、山梨大学など国立公立大学に六十三名が、慶応大学、早稲田大学など私立大学に二〇四名が合格するなど生徒それぞれが希望する進路実現を果たしております。

さて、令和二年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、誰もが経験したことのない三か月に及ぶ長期の臨時休業を経て、五月二十五日からの学校スタートとなりました。新年度に入り約二か月の間、登校することもままならず部活動も禁止となり、ひたすら自粛生活を余儀なくされ、たまったストレスは相当なものであったと察します。新入生においては、合格を果たしたのに入学式を迎えることができないなど、不安や焦りは最大だったと想像します。教職員においても、休業期間中のオンライン授業の作成、配信、校内の感染防止に向けてのガイドライン作成、在宅勤務の導入など、むしろ休業中の方がはるかに負担が大きかったのは事実であります。学校再開にあたり本校が最優先したのは生徒・教職員の命や健康・安全を守ることでありました。そのため、前期の学校行事は、葦葉祭をはじめすべてを中止・延期といたしました。また、生徒の学力を保証すること、特に三年生の進路指導に支障を来さないよう授業時間を確保するため、夏季休業の短縮など年間行事の見直しを何度も図りました。

誰もが経験したことのない厳しい状況を乗り越えるために必要なのは、まさに校訓「百折不撓」の精神であります。学校再開後、生徒には校訓を含め、「プラス1」「二歩前へ」「困難に打ち勝つ」というスローガンを提示し、コロナウイルス

こられた歴史と伝統の重みは、私たち現役の心の拠り所でもあり、誇りでもあります。この文武両道の伝統と爽やかな校風を慕って、毎年、県内外から強い志を持った生徒が入学してきております。このことは、入学する生徒の動機にもあらわれており、アンケート結果では「進学に有利だから」、「部活動が盛んだから」という理由が高い割合を占めています。

本校には様々な特色ある教育活動がありますが、その中でも、現在の葦崎高校の最も特色ある教育活動の一つは、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校としての取組です。平成二十九年度、文部科学省からSSHⅡ期指定を受け、現在、九年目の活動に取り組んでいるところです。Ⅱ期目では、「葦高から世界へ スーパーサイエンス・ハブ・スクールの構築」を研究テーマとしております。この目標は、本校が「科学」による地域連携のハブとなり、さらに、本校生徒が、中心的な役割を担い、地域の小中学校、高校、大学、企業等と連携・協働を図り、科学的活動を広め、深化させていくことで、地域理数教育の質の向上につなげ、本校卒業生の偉大な大先輩大村博士に続く未来の科学者を育成することにあります。目標達成のため、SSHの基本理念を、大村博士の「イズム継承」に掲げ、この先の予測困難な未来に向けて、「人のためになる」研究を創造できる人材育成こそが本校のSSHの使命であると考えております。

こうしたSSHの研究活動が、生徒の探究力の向上を育む要因となっており、一人一人の学力向上に寄与し、高い進歩実績につながっております。本年三月の卒業生は、東京大学、に打ち勝つために葦高生として自覚と責任のある行動をとることを指導して参りました。自ら考え、判断し、行動する資質、すなわち「自律する力」は、本校生徒が日々、文武両道に励み、心身を鍛えながら、磨いているものであり、このことが、まさに本校が目指している教育方針「人間を育てる」であり、人として自律し、社会で役に立ち、社会に貢献し、社会をリードする魂や心をもった人材育成こそが、本校の使命であると考えております。

この原稿を書いている現在は、SSHコロナとも言われ、感染拡大が見られる中においても、どのように学校教育活動をストップさせないで実施するかが問われております。非常に難しい課題を突きつけられておりますが、日々感染防止に努めることは当然のこととしながらも、感染者が出ることも想定した上で、持続可能な教育活動を展開して参る覚悟を新たにしております。

葦崎高校教職員一同は、教育方針「人間を育てる」のもと、新型コロナウイルスに打ち勝ち、厳しい社会を生き抜くために必要なたくましく、しなやかな心を身に付け、社会に貢献できる有為な人材を育成できるよう、誠心誠意、学習指導、生徒指導に取り組んで参ります。同窓会の皆様にも、御指導を仰ぎ、御協力をいただくことを心からお願ひ申し上げます。

結びに、同窓会のみならずの御発展と会員の皆様の御健勝と御活躍を心から御祈念申し上げます、挨拶とさせていただきます。

恩師寄稿



「ごあいさつ」



令和2年度
同窓会総会実行委員長

野口 正人

Masahito Noguchi

「この度、令和二年度葦崎高等学校同窓会総会並びに懇親会が盛大に開催されましたことに、当番幹事一同、心より感謝し、厚く御礼申し上げます。」

私は、皆様の前でこのようなご挨拶をもって、当日を迎えるつもりでございました。

昨年、先輩方から昭和五十九年三月に卒業した第三十四回生として本年度の当番幹事を引き継ぎ、年明けの一月に開催した同窓会を契機に、親善ゴルフ大会を始めとし、招待サッカー事業や九月開催の同窓会総会・懇親会をやり遂げ、滞りなく後輩達に引き継ぐことを目標に、期待と不安を抱きながら準備が始まりました。そんな中、時間の経過とともに私たちを試すかのような様々な困難が立ちはだかり、更には大きな決断を強いられることになりました。

都度、議論を重ね、意見の食い違いや意思の疎通に一喜一憂しましたが、ふと、部活動や葉葉祭など、先輩や後輩、家族や周囲に協力をいただきながらその度に壁を乗り越えてきた学生時代が蘇ってきました。あの頃と違うことは、互いに

長き年月を重ねる中で、相手を敬い、より深く理解し合うようになったことだと思います。

私たちの描いた思いは、全事業の中止という、同窓会史上、前例のない出来事によって叶うことはなく、達成感さえ得られないまま幕を閉じることになりましたが、何も残らなかつたわけではありません。

それはスローガンに掲げた「絆」です。新たに結ばれた絆は代えがたい宝となり、これからの人生において、心強い支えになることと信じています。

この場をお借りして、改めて御礼を申し上げます。限られた時間の中で様々な資料をまとめ、準備してくれた仲間や調整役を買ってでてくれた仲間、表に出ずとも協力してくれた大勢の仲間、県外から応援してくれた仲間、全ての仲間たちに心から感謝申し上げます。

結びに、事業の中止をご理解いただき、従来のような記念誌が製作できないながらも、お力添えを賜りました法人個人、関係者の皆様には、深くお詫び申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。

二年後には大きな節目となる百周年、そして同窓会を迎えることとなりますが、母校である葦崎高校並びに同窓会がますます発展されますよう心より祈念し、実行委員会を代表してのご挨拶とさせていただきます。

遠い遙かな日々	学年主任	中山 眞次
百折不撓	3年1組担任	手塚 和義
再び母校で学ぶ	3年4組担任	坂本 仁
性別で評価しない世の中に	3年5組担任	浅川 節子
忘れがたい三年間	3年6組担任	保坂 博文
「百折不撓」のおもいで	3年7組担任	金丸 一明

遠い遥かな日々



学年主任

中山 眞次

Shinji Nakayama

昭和四十年、念願の葦崎高校に赴任した。以来甲府総選と葦高の間を往ったり来たりを繰り返して、結局十六年間葦高に勤務することになった。葦高は母校でもあり、旧制葦中、葦高の六年間を加えると、実に二十二年間も葦高の厄介になったことになる。私にとって葦高は母校というだけに止まらず、何か離れ難い、まさに「郷愁のさわまるどころ」なのである。

葦高時代で思い出すことは沢山あるが、何といっても強烈な印象に残っているのは、二度目の葦高赴任から在籍していた五年間、全国高校サッカー選手権大会で、横森巧監督率いるサッカー部が、連続五年間、国立競技場で葦高の名を轟かせたことである。毎年お正月に応援バスを仕立てて行ったあの興奮は忘れ難い。優勝はできなかったが、準優勝三回、三位二回の偉業は、葦高スポーツ史に燦然と輝いている。

三度目の葦高回帰は、平成二年、校長として着任した時で

あった。翌年、教育方針を「心を鍛える」とした直後、遇々文部省・県教委から、生活指導推進校の指定を受け、「心を鍛える」をテーマに二年間、生徒・教員を挙げて取り組みることになった。研究主任の浅川保先生はじめ先生方に大変ご苦労を頂き感謝している。また、新しい制服もこの年から制定委員会を発足させ、平成四年から学年進行で新しい制服になった。今年葦高では二度目の制服改訂が行われて、一年生

は男女とも新しい制服になったと聞く。平成四年は学校週五日制の検討が始まり、当面隔週で土曜日休業へと移行していった。平成四年は学校創立七十周年の年に当たり、九月、記念モニュメント「旅立ち」の除幕式、翌日記念同窓会が挙行された。モニュメントの左横の地面に、私が揮毫した「旅立ち」の文字が、今も生徒らの足に踏まれて残っているだろう。思えば茫茫二十七年、懐かしくも遠い葦高時代である。

百折不撓



3年1組担任

手塚和義

Kazuyoshi Tezuka

いまだに終息を見ないコロナ禍、様々な困難の中で同窓会事業にご尽力いただいた第三十四期生の幹事の皆様本当にご苦労様です。

私は葦崎高校には通算十八年、都合三度勤務しました。その最初の勤務で五十六年度入学・五十八年度卒業の皆さんと三年間を共に過ごしました。自身三十代中頃の思い出多き時代でもあります。特に印象に残っているのは、サッカー部の活躍です。五年連続ベスト四という輝かしい戦績のうち三年間を共有しました。バスを何台も連ねての応援、国立競技場で百折不撓の鉢巻で「八ヶ岳おろし」を歌ったことを今も鮮明に思い出します。

また、台風の影響で校舎の西を流れる黒沢川があふれて職員室まで浸水し、机の下の引き出しが水びたしになった事件もありました。

定年退職し早や十四年、その間地域の役職が次々回ってきました。農事組合長、地区班長、公民館長等々、在職中とは違った様々な皆さんとのふれあいに新しいこともたくさん学ばせてもらいました。地域の伝統行事などに参加して郷土の良さをあらためて感じています。数年前より漢詩創りを始めました。頭の老化を少しでも防げたらと思っっているのです。また、身体のと一反の畑で季節の野菜を育てて汗を流しています。夏の草との戦いは大変ですが、何より晩酌のお供に採れたての野菜が一番です。そんな日常生活を送っていた矢先、昨年十月より体調を崩し半年ほど入院生活を送りました。今は以前の活動ができるようになりリハビリに奮闘しています。社会の中堅として活躍されている三十四期生の皆様の益々のご活躍を祈念いたします。

朋来学舎

蒼岑

天涯懷抱好峰巒

郷曲釜無琴一彈

魚躍鈴蘭無限響

山聽掬水共交歡

再び母校で学ぶ



3年4組担任

坂本 仁

Jin Sakamoto

皆さんの生まれた年は、高度経済成長時代の始まりで、前年には東京オリンピックが開催されました。私はこの時、皆さんと同じ母校の三年生で、歌の世界では御三家と言われた舟木、橋、西郷の全盛期であり悩み多き青春時代を彼らに癒されたような気がします。

それから十七年、今度は教師として再び母校で学ぶ機会が与えられ、最初に学び舎を共にしたのが二年四組の皆さんでした。当時は、サッカー部が黄金時代で文武両面にわたり活気に満ちていましたが、反骨精神に富んだ生徒も多く、教師としてやりがいを感じたとともに多くの勉強もさせて頂きました。

翌年も三年四組の担任として、皆さんと一緒に学ぶことになりました。当時、私はまだ三十六歳という年のせいもあってか皆さんに親分とか組長と呼ばれ、副組長(委員長)

性別で評価しない世の中に



3年5組担任

浅川 節子

Setsuko Asakawa

新型コロナウイルスで蕪高同窓会が中止。懐かしい人々の再会が出来ず残念である。

退職して十三年の私は趣味を楽しんでいる傍ら、蕪崎市の行政委員にいくつか任命されている。その為市職員との交流も多く、教え子らが幹部として活躍しているのを大変誇らしく思う。私事だが恥ずかしながら、市の仕事を始めてから市民憲章を知った。「自然を愛し美しいまちをつくりましょう」「勤労を尊び豊かなまちをつくりましょう」「教養を高め文化のまちをつくりましょう」である。とかくひとりよがりになりがちな人の生き方の指針となり、市民の心得になるものである。

各種イベントや会議の冒頭に唱和されている。生まれも育ちも蕪崎市である私はこの市民憲章が好きだ。市の繁栄を願う市民が気持ち良く暮らしていけたら良いと思っている。

の栗林君の支えと協力的な組員のもと、坂本一家を形成でき、種々学ばせて頂いたことを三十七年経った今でも懐かしく思い起こします。

この時代に学校行事で特筆すべきことは、強歩大会の復活ではないかと思えます。陸上部と文化部の皆さんに試走をお願いし、上諏訪までのコースを決定したことや初めて参加した皆さんの頑張り、昨日のことのように思い出されます。また女子バレー部の指導では、バレー経験のない私の厳しい理不尽な練習に耐え、打倒増穂商業の礎を築いてくれた部員の皆様に心から感謝しています。

皆さんの卒業後八年間は母校、甲府昭和高校、高体連、県教委、北杜高校校長を最後に平成二十年三月に定年退職し、引き続き山梨県歯科衛生専門学校で十年間お世話になり、この八月で七十三歳になります。今は、市スポーツ協会等の地域活動や野菜作り、孫の子守などに勤しんでいます。

終わりに、社会の中堅としてご活躍されています三十四期生の更なる躍進を祈念します。

令和になって動きがあった。市役所に三人の女性課長、女性の教育長が誕生した。女性の管理職志向が低迷する時代にあつて当人たちの意欲と実績が評価された証だろう。山梨日日新聞八月十二日の記事によると「家庭との両立不安」がリーダーになるのを妨げているとのこと。確かに体力には限界があるのわかる。しかし、注目すべきは次の質問への回答だ。「リーダーには男性が向いているか」に女性八三・四％男性七九・九％が否定し、「子供が三歳になるまでは母親が育児に専念すべきだ」「家族を経済的に養うのは男性の役割」に対して「そう思わない」「どちらかというそう思わない」が男女ともに半数を超えたという。時代は確実に変わってきていると感じた。

どちらの性で生まれるのかは決して自分では選べない。一人ひとりが適性や能力で評価され家族や社会に貢献できたら、生き甲斐も高まり楽しいだろうと思う。たった一度きりの人生なのだから。違いを認めお互いに敬意を持ちながら、生きていけたらと思う。

忘れがたい三年間



3年6組担任

保坂 博文

Hirofumi Hosaka

私は昭和五十六年に三十才で葦崎高校へ赴任し、一の二、二の二、三の六と持ち上がり、今でもはっきり記憶に残る想い出を数多く作ることができました。

一年二組はにぎやかで超明るいクラスでした。LHRでは笑い声と歓声が両隣のクラスに響きわたり、「シー。静かにしよう。」と抑えるのにそれはそれは苦勞しました。

二年二組は一転おとなしく真面目な生徒が多く、勉強もみな頑張りました。修学旅行では、「あのおとなしい生徒がこんな歌を？」と思うほど、バスの中でみんなでカラオケを楽しみました。

三年六組では、突然私が担任になったのでお互いにとまどいもありましたが、間に立って私を支えてくれる生徒が何人もいて助けられました。午後のLHRと英語の時間をつなげ、家庭科室でみんなで料理を作ったことなどが懐かしく思い出されます。

皆さんと過ごした3年間は、「まっとうにぶつかって行けば、生徒は必ずそれに応えてくれる」ことを学んだ日々でした。思い出に残る美しい日々でした。



「恩師寄稿」

「百折不撓」のおもいで



3年7組担任

金丸 一明

Kazuaki Kanemaru

私は葦崎高校に昭和五十六年四月に就任し十年間お世話になりました。

就任二年目に二年七組の担任として二年間卒業まで皆様とお付き合いをいたしました。男子三十九人、女子六人の理系クラスで、現在の学校規模からいうとだいぶ多い生徒数でしたが、まとまりのあるしつかりしたクラスでした。

この時期の葦崎高校のサッカーは全盛期であり三年生時の第六十二回全国サッカー選手権大会では三位で、五年連続ベスト四に輝いていました。それまでのテレビで観戦応援するのは、また一味違う緑の芝サッカー場での応援は実に迫力のあるものでした。「八ヶ岳おろし」の砂の舞う校庭で練習に励む皆さんを見て校訓「百折不撓」の精神を実感しました。私も、退職後葦崎高校剣道部の深澤先生と顧問をしていたご

縁で「居合道」を志し五段の腕前になりました。現在は残念ながら膝を痛めて稽古を休んでいます。

七十八歳を迎え三十八年間の教員生活に暮をおろし十九年が経ちました。現在は親から譲り受けた田畑の仕事や、今までお世話になった地元へお返しする意味で奉仕的なお手伝いをしています。

さて、先ほど触れました「百折不撓」の精神は退職後も、年取った私の心の中にも生きています。挫けそうになる時、行き詰まった時、いつもこの言葉を思い出します。

卒業生の皆さんもぜひ、この素晴らしい校訓を胸に偉大な大村智先生の後輩としてそれぞれの分野で頑張りを活躍されることを期待します。

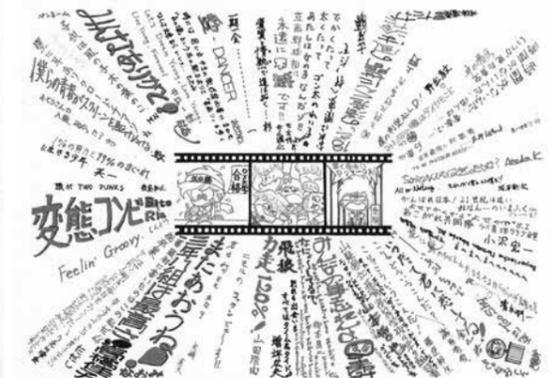
最後に葦崎高校の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

「恩師寄稿」

絆 同窓生



新型コロナ禍に想う	葦高第4回卒	大村 智
全てを葦高サッカー部とともに	葦高第18回卒	仲澤 昌郎
同級生	葦高第28回卒	雨宮 正英
フロンティアランナー	葦高第70回卒	加賀谷 湧
尊敬とプライド	葦高第34回卒	古屋 浩
二十一世紀のパンデミック	葦高第34回卒	霜村かおり
今、思うこと…	葦高第34回卒	小池恵美子



「思い出の寄せ書き」 (第34回卒業生の卒業アルバムより)

新型コロナ禍に想う



葦高第4回卒

大村 智

Satoshi Omura

北里大学特別荣誉教授

葦崎高等学校同窓会の当番幹事から今年の九月二十七日に同窓会を行うので、日程を空けておくように言われ、手帳に予定を入れておいたところ、最近のコロナ禍により中止になり、代わりに会誌を編纂するための原稿の依頼を受け、この稿をしたためることにしました。

今年の春頃から始まったコロナ禍は、治る気配もなく、感染拡大が続いています。この禍に加え、今年は異常な梅雨が長く続き、九州を始め多くの地方で甚大な被害が起きていますと報道されている中にさらに時々地震も有り、予想だにできなかった不安な状況下で自粛生活を余儀なくされています。梅雨中の東の間の晴れ間があっても心は少しも晴れません。

自粛生活が始まった当初は、以前、買い込んでいたカミユの「ペスト」とか吉村昭の「破船」などを読みながら、人類は度重なるの文章が葦高同窓会誌に載る頃には、一部であっても朗報が得られることを祈っているところです。

そこで思い出すのは、葦崎市神山町の武田八幡宮の撰社 為朝神社（地元の人々には「為朝さん」と呼ばれています）のことで、これには鎌倉時代初期、剛弓で剛勇無比と言われて名高い鎮西八郎源為朝公が祀られています。郷土史資料によると、この神社は、甲斐武田氏の始祖、武田信義公が建立したと伝えられています。ちなみに信義公の曾祖父義光は、為朝公の曾祖父義家と兄弟で有り、信義公は十一歳若い為朝公を非常に深く尊敬していたと言われております。そこで、鎌倉幕府を起こした源頼朝の圧政による存亡の危機に瀕していた武田家の安泰を祈ったと言われています。

江戸時代になると、為朝公は桃太郎や鍾馗と共に、赤絵に描かれて疱瘡や麻疹除けのまじないに用いられ、また、為朝さんには遠方からも多くの参拝者が訪れ、これらの疫病にかからないように祈ったと言えられています。

目下、東京から葦崎への帰省はなるべく控えています。早期に葦崎へ帰り、全世界の人類に代わって為朝さんにお参りし、イベルメクチンが患者を救うようになり、現在、世界で感染者一千四百万人余、死者六十万余人余と報道されている新型コロナ禍が早期に収まるようお祈りをしたいと思います。

最後に葦高同窓会会員の皆様も日常の感染症の対策を怠らず、ご健勝にお過ごしになられますことをお祈り致します。

感染症の恐怖にさらされて来たことに思いを馳せていました。

今日の新型コロナ禍は、全世界に拡大しており、十四世紀にヨーロッパの人口の三分の一が死亡したと言われるペスト、一九一八年の四千万人の死者が出たスペイン風邪、さらには死者百万人と言われる香港風邪などと、過去に人類に襲いかかった感染症（疫病）の歴史上の事例の悲惨な様とを重ねることが出来るように思っています。これら過去の感染症の恐怖に晒された時代と比して、遙かに科学が進歩して来ている今日であっても、今回の新型コロナに直面すると、科学の力不足を感じざるを得ません。とは言え、現在の科学は、これに対処する術を構築することは、以前より早めることは可能と思われれます。

私どもの研究所では、今年の二月にいち早く抗コロナ薬の創薬研究を始め、既に有望な抗新型コロナウイルス化合物を見出しています。この研究を進めていたところに、四月になって一九八一年に動物薬としての発売が始まり、加えて一九八七年からは、ヒト熱帯病オンコセルカ症及びリンパ系フィラリア症の撲滅作戦に、現在四億人が服用しているイベルメクチンがなんと新型コロナ感染症に有効であると中南米の国々での観察研究が次々と報告されるようになり、闇夜に光を見出す思いになっています。目下、この有効性を科学的に実証するために全世界に渡り、三十二ヶ所の大学や研究機関の病院で、医師主導により治験が始まっており、こ



為朝像正面



為朝神社覆屋

源為朝像（為朝神社）

所在地：山梨県葦崎市神山町北宮地
制作年代：天保12年（1841）5月25日
制作者：滝沢定右衛門藤原直正（信州松本上東町）
*平成7年に柳本伊左雄監修、平出光彦が修復を実施
所有者：武田八幡宮
写真提供：葦崎市教育委員会

【略歴】

- 一九五四年 葦崎高校卒業
- 一九七一年 米国ウエスレーヤン大学 客員教授
- 一九七五年 北里大学薬学部教授
- 一九九〇年 社団法人北里研究所所長
- 二〇〇一年 北里大学北里生命科学研究所所長
- 二〇一三年 北里大学 特別荣誉教授
- 二〇一五年 学校法人女子美術大学 名誉理事長
- 二〇一五年 ノーベル医学生理学受賞

全てを葦高サッカー部とともに



葦高第18回卒

仲澤 昌郎

Masarou Nakazawa

葦高サッカー大好き会
世話人

このコロナ禍の真っ只中、月曜日を除く毎日、マスクをして葦高に通っている。目的はただ一つ、生徒達に会いたいののである。とにかく生徒らに会うのが楽しくて楽しくてしかたない。吹奏楽部、陸上部、バスケット部、野球部、サッカー部etc。とりわけサッカー部は、二十数年応援し続けている。部員全員の名前を覚え、誕生日には必ずメッセージを送り、正月には賀状を送る気合の入れようだ。毎日練習を見に行き、監督に怒られている部員がいれば近づいていって「期待されているからだぞ!」と慰め、怪我をしている部員がいれば「痛いよね!」と言って一緒に痛みが、心が病んでいる部員がいれば相談にのる、そんな毎日を過ごしている。特に二〇一五年からの応援は朝昼夕と一日中部員らと行動を共にする日もある。韓国遠征などはその最たるものである。どうしてこうなったのか自分でも分からない。まあキツカケは、横山

昭作先生(葦高サッカー応援のレジェンド)と深井正樹さん(元鹿島アントラーズ)かな。二人にはサッカーの楽しさを教えてもらい、幸せな気持ちをもたらした。今でも二人にはとても感謝している。更に柏好文君(現サンフレッチェ広島)との中学時代からの関わりも大きい。彼は葦高がとても好きで、いつも気にかけてくれる。

さて、昨年の葦高サッカー部の奮闘ぶりだが肝心の選手権のタイトルは取れなかったが、近年まれにみる素晴らしい活躍だ。十年間鳴かず飛ばずの葦高サッカー部がどうして強くなったのか。理由は全てのサッカー部に関わっている人間が諦めなかったことである。「どっこい葦高サッカー部はいきてるぞ!」と闘志を燃やしていたからである。指導者達はもちろん、学校、地域みんな、保護者の皆さん、そしてOBその他もろもろの人達が気持ちを一つにして葦高サッカー部を盛り上げたからである。細か



ちなみに私は、高校時代は吹奏楽部でした。葦高高校がますます栄えますように!

くいうと、一つはウエイト・トレーニングを取り入れたことだ。四年前から始めたのだが、部員は三年目ぐらいからだんだん自信をつけてきて、今まで体当たりで負けていた選手に負けなくなってきた。この感覚は選手にとつてはとても大事。素晴らしいこと。そしてもう一つは「寮」を立ち上げ「葦高サッカー部ここにあり」



の心意気を日本中に発信したこと。今寮には七人の部員が管理栄養士の資格を持つ方と一緒に生活し毎日とてもおいしいご飯を食べている。この二つがサッカー部の底力になった。そして今年の一年生はとても魅力的な部員達で頼もしい。今年こそは山梨の代表となり、正月に全国でひと暴れしてもらいたいものだ。私は今年はずりできると信じている。

最後に私には夢がある。それは葦高サッカー部の「全国制覇」だ。皆さんも想像してみたい。この小さな県の小さな高校が全国一になるのである。わくわくしませんか? 私の目の黒いうちに何とか実現できますように、皆さんも一緒に応援してください。葦高サッカー部は地域の「宝」です。灯を絶やしてはいけません。皆さんの力でつなげて、つなげて、つなげぬき、輝く未来を掴み取りましょう。



【略歴】

- 一九六八年 葦高高校卒業
- 一九八八年頃 サッカー部を応援 応援歌や横断幕などを作る
- 二〇一五年 保険会社勤務を経て退職

農業の傍ら寝食を惜しんでサッカー部に深く関わる

同級生



蕪高第28回卒

雨宮 正英

Masahide Amemiya

山梨交通株式会社
代表取締役 社長

今、この文章を書いている四月初旬、窓の外は桜の花が満開です。高校入学の思い出は、まず、ラジオから流れてくる合格者の発表です。皆さんも覚えているでしょうか、当時は延々と合格者の氏名を読み上げていくラジオ番組があったのです。

そしてスタートした高校生活、革のカバンを持ったり、革靴を履いたり、少し兄貴分になったような感じで、ワクワクした青春時間が次々に脳裏に浮かびます。

同級生とは、喧嘩もしたり、悪ふざけの結果先生から大目玉を食らったこともありましたが、三年間、愉快に遊び、学んで、充実した時間を共有しつつ、それぞれの進路に進んでいったわけです。大学に進み、或いは社会人として、時には「百折不撓」の言葉を思い出しながら奮闘努力してきた我々ですが、五十五歳の年、同窓会の当番幹事の年が回ってきました。



準備会合に続々と集まってくる同級生たちは、常に音信を確かめていた友もいれば、卒業以来久しぶりに会う姿も。なかなか思い出せない顔も大勢いました。

幹事年から六年、令和二年初旬の土曜日、今年もまた二十八回卒の仲間が泊りがけの同窓会に集まりました。毎回数十名の参加です。旅行・飲み会の企画は強いリーダーシップを発揮する女子の皆さんから召集令状が届きます。

また、同級生ゴルフも楽しいもので、下手な私もできるだけ参加しています。

私たち同級生は、今年三月に六十歳定年を迎える年回りですので、集まっつての話題は自ずと勤務時の思い出や定年後の第二の進路となります。また、全国展開する企業経営者の同級生のように、定年を待たずに次の進路に進んだ苦労話もあります。

真つ黒に日焼けした男子は、耕作放棄農地を借り受け、地元へ貢献すべく大規模に農業を展開しているそうです。家業のぶどう農家を継いだ女子は、ラジオを聴きながらの作業中、同級生のインタビュー番組が流れてきて嬉しかったと話してくれます。

政治家になった男子が、議長になりそうだとの話も聞こえてきます。公務員をやめて盆栽づくりと販売に夢を抱く話にも、皆は興味津々です。

そして、学校の先生である同級生たちは、教え子たちの思い出を語ってくれました。この時はまだコロナウイルスの猛威を予想もできませんでしたが、実際には、教育に捧げた人生の中で、校長として最後の卒業式が中止になり、規模縮小となり、寂しい事態となってしまいました。

気心の知れた同級生との会話は、楽しく、何故かとてもリラックスできます。高校時代という多感な時を一緒に過ごし、社会でも共に一定の役割を果たしてきた同級生は、正に掛け替えのない存在であり、宝物であることをしみじみと感じる今日この頃です。歌手の竹内まりやさんの楽曲の中に、「人生の扉」という歌があります。

その歌詞の「満開の桜や色づく山の紅葉を この先いったい何度見ることになるだろう」の部分は、私達にとっても実感が持てるもので、蕪崎・北巨摩の山や里の風景と、同時に思い浮かぶ同級生の笑顔を胸に、「ファイブ ツービー 60、オールライト ツービー 70、グッド ツービー 80」と歩んで行けたらと思う次第です。

【略歴】

- 一九七八年 蕪崎高校 卒業
- 一九八三年 早稲田大学 社会科学部 卒業
- 一九八三年 山梨交通株式会社 入社
- 二〇〇四年 同 取締役 バス事業部長 に就任
- 同 取締役 専務取締役
- 代表取締役 専務を歴任
- 二〇一七年 同 代表取締役 社長に就任

【外部役職】

- 地域公共交通マイスター
- 山梨県交通政策会議委員
- 甲府商工会議所副会頭
- 一般社団法人 山梨県タクシー協会 会長
- 一般社団法人 山梨県バス協会 会長
- 一般社団法人 甲府市観光協会 会長

【その他】

- 山梨交通電車史 調査
- 郷土の偉人「駐米大使 埴原正直」調査研究・著書出版

フロンティアランナー



菲高第70回卒

加賀谷 湧

Yu Kagaya

東京大学理科1類

私は現在、東京大学の学生として大学生活を送っている。今年
は、新型コロナウイルスの影響で、授業がオンラインとなり、対
面でのサークル活動も禁止された。正直なところ私が思い描いて
いたキャンパスライフとは随分とかけ離れたものであるが、それ
でも周りのレベルの高い仲間たちから刺激を受け、充実した日々
を過ごしている。

高校生活を振り返ると、やはり勉強のことが第一に思い出され
る。私は高校三年間を本気で勉強に捧げたと自信を持っているこ
とができる。今でこそ良い思い出となっているが、当時の自分に
とっては非常に辛い日々であった。

私が本格的に勉強を始めたのは、一年の夏頃に部活動を引退し
たときだ。きっかけは、担任の先生に「部活を辞めるなら代わり
に勉強しろ」と言われたからという単純なものだ。それ以降は、

未開の道を自らの手で切り拓き、そこを駆け抜けてきたという意
味が込められている。

私は、このフロンティアランナー精神は、受験に限らず人生の
いかなる場面においても重要であると考えている。現在、科学技
術の発展などにより社会は目まぐるしく変化しており、東大を卒
業した人の働き方やキャリア形成も変化してきている。このよう
な変化の時代においては、深く考えず周りの人に流され、変化の
波に飲み込まれないようにしなければならぬ。そのためには、
自分の将来を自分の手で切り拓く力が必要だと思う。菲崎高校で
の三年間で培ったフロンティアランナー精神を持ち続けて、未来
が不透明なこの時代を切り拓いていきたい。

部活に充てていた時間を全て勉強に費やし、毎日五時間は勉強を
するようにした。その結果、成績は着実に上がっていき、二年の
夏頃には東大が狙えるレベルにまで到達した。また、ちょうどこ
の時期に、オープンキャンパスや東大志望者向けセミナーに参加
したことで、自分の中で東大に進学したいという思いが確固たる
ものとなり、本格的に東大を目指し始めた。しかし、本当に大変
なのはここからだ。東大というゴールを決めた以上、到達し
なければならぬレベルと現状の自分のレベルの差に向き合わな
ければならない。それは、他の受験生との競争というより、どれ
だけストイックに勉強を継続できるかという自分との戦いであつ
た。しかし、周りの仲間や先生が応援してくださり、辛い受験勉
強もなんとか乗り越えることができた。そして、無事に合格を掴
み取ることができた。合格を報告した時の先生の喜んでくださつ
た顔は忘れられない。

ここで、この文章のタイトルである「フロンティアランナー」
という言葉について説明する。これは、私が現在所属している
UTFR(U-Tokyo Frontier Runners)というサークルの名前の一
部である。このサークルは、私のようにほとんど東大進学者が出
ない高校出身の東大生が所属しているサークルである。フロン
ティアには、「西部開拓における境界地帯」という意味があり、
フロンティアランナーという言葉には自分たちは東大進学という



国際交流事業クナラ
高校生の受け入れ

【略歴】

二〇二〇年 菲崎高校卒業
二〇二〇年 東京大学入学

尊敬とプライド



韭高第34回卒

古屋 浩

Hiroshi Furuya

株式会社プロヴィンチア
代表取締役

私は現在、株式会社プロヴィンチアという会社を経営しております。「葡萄屋 KOTÉ」というブランドを立ち上げ、地元で栽培されたブドウを干しぶどうにし、レーズンサンドというお菓子を甲府の朝日で製造して甲府市丸の内「甲州夢小路」にて販売しております。

また、地元で栽培されている素晴らしい果実を多くの方に知ってもらいたいという想いから、富士河口湖町大石の商業施設「富士大石ハナテラス」と山梨市の「笛吹川フルーツ公園」にて生のフルーツを使用したフルーツパフェを販売させていただいております。

開業当初は苦勞の連続でしたが、それも今となっては「百折不撓」の精神を実感する良い期間であったかと思えます。「夢は必ず叶う、自分が諦めなければ」という高校時代の恩師から頂いた

言葉が力を生み続けました。

最初の転機は、地元韭崎のご縁で阪急百貨店梅田本店様にてレーズンサンドを販売し大好評をいただいた時に訪れました。それをきっかけに多方面から取材のお声がけを頂戴するようになり、さらに生のフルーツをパフェにして販売するカフェ事業を展開したことにより「葡萄屋 KOTÉ」というブランドはより注目をいただくこととなりました。山梨の果実のポテンシャルの高さから、季節によって

は2時間以上お待ちいただくような店舗に成長したことをありがたく感じております。

これもひとえに、地元の果物の魅力があったからこそと感謝しております。

かくいう私は、最初は地元ではなく都会を選びましたが、サラリーマ



生み続けます。

今後も変わりなく地域に対する尊敬を仲間たちと共有し、この地域に存在する企業であり続けます。

絆 同窓生

特集
1

ン時代都内の新規開拓で訪問した場所で「山梨なら桃を持って来い」というパティシエの方のご意見をいただき、地元大草の桃をお持ちしたところそのクオリティに驚かれ、沢山の方をご紹介いただいて全国に展開する事ができました。そのおかげで私自身果実の魅力が改めて知ることとなりました。そして普段当たり前に見ている果実が実はとても優れたものであると知った頃に、温暖化の影響で黒く色づかない黒ブドウが多くあるということもまた知りました。その時、地元の果物において新しい価値を作りたいたいという気持ちが芽生え「国産ドライフルーツ」を開発するに至ったわけです。

コロナウイルスの影響は山梨の農業に大きな影響を与えています。飲食店への販売量が激減し行き場を無くしたこだわりの生産物が多く発生しています。私どもは生産者と連携し野菜や果物をボックスに詰め込み直接消費者に販売すると共に、都内に無人販売所の展開を行っています。人とのつながりが不安な時期だからこそ、人のつながりを感じる事が出来る販売を更に進めて参ります。

一年を通じて栽培を行う生産者様のご苦勞や、地元の自然の雄大さ、季節の素晴らしさを知り尊敬する心が私たちの製品を形にします。

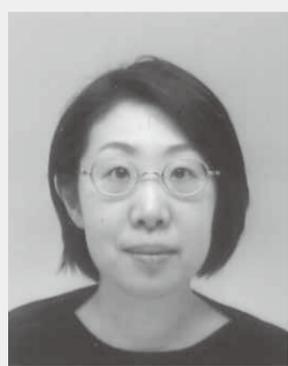
振り返ると、二年連続国立競技場の応援へと導いてくれた友がおり、その友へ抱いた感情が「尊敬」である事を学んだ高校時代があり、そしてこの時代があったからこそ今のこの想いを抱けるのだと感じております。

果実が仕事を作り、人が地域を作る、そして地域はプライドを



【略歴】

- 一九八四年 韭崎高校卒業
- 二〇一一年 株式会社「山梨設立」
- 二〇一四年 株式会社プロヴィンチア設立



蕪高第34回卒

霜村 かおり

Kaori Shimomura

本町クリニック医師

医師になって三十年、まさかこんな事態が起こるとは想像もしていませんでした。

コロナウイルスは当初から、これだけ世界が狭く行き来できる時代、あっという間に世界中に広がると予想されていましたが、残念ながらその通りになってしまいました。それでも医学情報には、毎日のようにコロナウイルスに対する新しい発見が載せられており、さまざまな勢いで研究が進んでいます。蕪崎の地に開業して二十年以上たち、最先端の医療からは遠ざかってしまっていますが、医療の進歩は私が医者になった時の比ではないと実感させられます。

医学部に入り、まず言われた事は、「今までの勉強は貴方達自身のためのものです。これからは、人のために勉強するんです。ここで身につけた知識は、人のために使われなければなりません。」



それから独立して蕪崎で開業し、何よりも一人ですべての責任を負う事の重さを痛感しました。今までは、何かあったら他の医師に頼ることもできたのに、すべて一人で判断してやらなければなりません。それでもなんとか二十年以上過ぎ、少しはこの地域医療に貢献できているかな、と思っています。

そして今、未曾有のパンデミックが起ころうとは。よりにもよって幹事であるこの年に同窓会で久しぶりに懐かしいみんなと会えたのに、すべての行事が中止となってしまいました。それでも、出来ることを粛々と頑張るみんなに頭が下がります。

ウイルスに特效薬を求めるよりも、出来ることを粛々と続けていくことが、パンデミックを終息させる最大の要因だと思います。「百折不撓」の言葉が今、この時に一番合っているように感じます。

ん。肝に銘じなさい」でした。今でも忘れられません。

最終学年の六年では、卒試が六回もあり、しかも一回でも落とすと卒業できないハードなもので、さらに卒業しても医師国家試験に受からなければ医者になれないわけで、ここで一生分勉強した気がします。

無事医師となり、故郷の山梨大学病院に入局しました。

医師になって最初の一年は右も左も分からない中で、とにかく先輩医師にくっついて歩く日々、学生の時勉強した知識と現場は大違い、医師になってからは体力勝負です。何時間も手術で立ちっぱなし、泊まることも普通で、病院の薄暗いお風呂で夜中にシャワーを浴びる日々（なぜか必ず霊安室の隣にお風呂がある）、借りたアパートのお風呂が壊れていることに気が付いたのが入居して四か月もたってから、つて事もありません。

ただひたすら仕事を覚える日々。医学書よりも、実際の経験が医師として何より大切だと学びました。



【略歴】

- 一九八四年 蕪崎高校卒業
- 一九九一年 帝京大学医学部卒業
- 一九九七年 山梨大学医学部耳鼻咽喉科学教室 入局
- 本町クリニック 開業



蕪高第34回卒

小池 恵美子

Emiko Koike

令和2年度同窓会実行委員会

副実行委員長

二〇一九年六月。居酒屋「だるま」から私たち蕪高三十四回卒業生の当番幹事の活動は具体的に動き始めた。このスタートの裏には高校卒業後、蕪高の同窓会理事会に出席し蕪高と私たち三十四回卒業生を繋いでくれた宮沢生徒会長の存在があった。今年度の同窓会の全事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止、そしてこの事業にかかわる全ての人の命を守るため、中止となってしまう。事業の中止は残念だが、私たちには得たものも多い充実した日々であった。

昨年九月の同窓会当日。高校卒業以来会う仲間たち。「あの席の人、誰かわかる？」小声で聞きあうこの会話が会場のあちらこちらで繰り返された。集合写真を撮ることをお互いに失念し残念がったが、「また来年の一月や九月にも会えるからいいか」と気持ちを切り替えた。この時は、先輩方が過ごしてきた時間を一年後

と軽視していた。しかし日を追うにつれ事態は悪化。手探り状態の中活動し準備を進める日々。「どうする？」何度、いや何十回この言葉を耳にしただろう。

「自分たちの中から感染者を出さないようにしなければ！」蕪高の名前に決して傷をつけてはいけないというプレッシャーと決意の中、どうやって前に進めばいいのかをみんなで模索し合った。三密を防ぐため、蕪崎市役所の駐車場で、間隔を開けマスクを着用し開いた例会。ふと空を見上げると澄み切った春の青空が蕪崎の町に広がっていた。空はこんなに綺麗で穏やかなのに、この空の下でコロナと闘っていることが信じられないと感じながらの例会であった。世間の流れとともに暗くなりかけた時、仲間には笑顔をもたらし、共に会話する機会を「LINE」上につけてくれたのは仲間であった。サッカー選手権大会の試合後の友人のインタビューの映像を掲載してくれたのだ。あの日は誰もが笑顔になった。また、このコロナ禍の中、マスク着用生活をより快適に過ごすことができるグッズを発明した友人や、マスク不足で不安な日々を過ごしている地域の人たちを支える活動をしている友人、地元の特産物の消費のために販売ルートを開発した友人の活動を紹介しあう場面もあった。離れた場所で生活していても同じ時間を共有し、メッセージや意見を「LINE」に載せあった。みんなとの会話を通じ「今できることをがんばろう」とそれぞれがそんな風に思えるように励ましあえたこのことは仲間との絆を強く感じた出来事であった。

当番幹事としての役割について最初は不安もあったが、その不安は仲間と直接そして間接的に関わるたびに消えていき「この仲間と

に追いかけて同じように経験できることを信じて疑わなかった。

帰り際に慌ててSNSを利用し作成した「蕪高34」のグループ「LINE」。今自分が無尽などで繋がっている仲間を一人ひとりが招待し翌日には登録者が百名近くになったことを覚えている。一昔前であれば電話と郵便を駆使し連絡を取りあわなければならぬことも、伝えたいことを打ち投稿ボタンを押したその瞬間に百名を超える仲間一気に伝えることができるのである。古臭い言葉になるが「文明の利器」の便利さに驚かされた。と同時に山梨の地に根ざしている「無尽」の存在力の強固さも改めて知らされた。「新旧共存」、この二つの存在が私たちの活動を支えていった。それからは、各クラスの連絡員たちが各クラスのグループ「LINE」を作り、少人数での周知を図った上に全体では言えない意見もクラスの中では言い合える環境を作ってくれたのである。

二〇二〇年一月。三十四回卒業生の同級会を無事に開催。県外からもたくさん仲間が出席し総勢約百名で、高校時代の話に花を咲かせた。浅川先生、保坂先生のご臨席は、私たちをいとも簡単に高校時代に引き戻して下さった。あの日「中国で新しい『風邪』が流行り始めたらしいね」とかわした雑談。あの会話がこのような事態の幕開けだとは知る由もなかった。それからの連日の報道。「風邪」の正体は「新型コロナウイルス」という未知のものであった。しかしこの時もまだ、「しばらくすればおさまるだろう」

ならやり遂げることができる」という自信へと変化していった。

今、私たちの当番幹事としての活動期間が終わりを迎えるにあたり思うことは、やはり「みんなと色々な事業をやってみてきたかなあ」の一言に尽きる。ゴルフ・サッカー・同窓会、それぞれの場所で先輩方とも話をしたかったし、楽しみにして下さっている方々の笑顔も見なかった。チケットや協賛などで毎年ご協力いただいているたくさんの方々の事業所や地域の方々に、今までの感謝を伝えこれからも蕪高の繁栄のための協力をお願いしたかった。ひたむきに頑張る母校の後輩の姿を近くで見、声援を送りたかった。と、溢れる思いが次から次へと沸き上がってくる。

この一年は、苦しい時であっても、いや、苦しい時だからこそ笑顔で楽しみながら今自分に、自分たちに行き届くことを、こつこつとやっていけば、それは必ず実となることを教えてもらった一年だった。この活動を通し、高校の時とはまた異なる人間関係を築き合うこともできた。この年齢になり、母校の当番幹事を請け負うことの意味はこういふところなのかもしれないと感じている。かけがえない時間をこの仲間と笑いながら過ごすことができ、言葉にならないくらい感謝の気持ちでいっぱい。「百折不撓」の精神のもと、この「絆」を大切に、またいつの日かみんなと笑顔で「我らの明日に乾杯」できることを心の底から願っている。

【略歴】

- 一九八四年 蕪高高校卒業
- 一九八六年 蕪高市の小学校に学校司書として勤務
- 二〇〇三年 旧双葉町・甲斐市の児童館に勤務
- 二〇〇八年 甲斐市の小中学校に学校司書として勤務

絆 蕪高は今



高いレベルの文武両道

教頭 伊藤 哲也

コロナ禍におけるオンライン授業について

進路指導主事 手塚 清孝

「距離」をとるとのこと

生徒会指導主任 松田 頼樹

今年でなければ学べないこと

生徒会長 矢吹 輝実

卒業回数年齢早見表

2021年3月末現在での年齢です
(通常での卒業年齢を記載しています)

■旧制蕪崎中学校

年度	回数	年齢
昭 2	1回	110
3	2回	109
4	3回	108
5	4回	107
6	5回	106
7	6回	105
8	7回	104
9	8回	103
10	9回	102
11	10回	101
12	11回	100
13	12回	99
14	13回	98
15	14回	97
16	15回	96
17	16回	95
18	17回	94
19	18回	93
〃	19回	92
20	20回	92
21	21回	91
22	22回	90

■蕪崎高等女学校 (蕪崎実科高等女学校)

年度	回数	年齢
4	1回	108
5	2回	107
6	3回	106
7	4回	105
8	5回	104
9	6回	103
10	7回	102
11	8回	101
12	9回	100
13	10回	99
14	11回	98
15	12回	97
16	13回	96
17	14回	95
18	15回	94
19	16回	93
20	17回	92
—	—	—
21	19回	91
22	20回	90

■蕪崎高等女学校(全日制)

*定時制は年齢を一つ加えて下さい

年度	回数	年齢
昭 25	1回	88
26	2回	87
27	3回	86
28	4回	85
29	5回	84
30	6回	83
31	7回	82
32	8回	81
33	9回	80
34	10回	79
35	11回	78
36	12回	77
37	13回	76
38	14回	75
39	15回	74
40	16回	73
41	17回	72
42	18回	71
43	19回	70
44	20回	69
45	21回	68
46	22回	67
47	23回	66
48	24回	65
49	25回	64
50	26回	63
51	27回	62
52	28回	61
53	29回	60
54	30回	59
55	31回	58
56	32回	57
57	33回	56
58	34回	55
59	35回	54

年度	回数	年齢
昭 60	36回	53
61	37回	52
62	38回	51
63	39回	50
平 元	40回	49
2	41回	48
3	42回	47
4	43回	46
5	44回	45
6	45回	44
7	46回	43
8	47回	42
9	48回	41
10	49回	40
11	50回	39
12	51回	38
13	52回	37
14	53回	36
15	54回	35
16	55回	34
17	56回	33
18	57回	32
19	58回	31
20	59回	30
21	60回	29
22	61回	28
23	62回	27
24	63回	26
25	64回	25
26	65回	24
27	66回	23
28	67回	22
29	68回	21
30	69回	20
令 元	70回	19

■蕪崎第一高等学校

年度	回数	年齢
昭 23	23回	90
24	24回	89

■蕪崎第二高等学校

年度	回数	年齢
昭 23	—	—
24	1回	89

旧制中学校・高等女学校は修業年限5年で、卒業年齢は17歳であった。昭和18年の中学校改正令で修業年限が4年となったため、昭和19年度卒(昭和20年3月卒)生は17歳と16歳がいたこととなる。新制高校は18歳卒となるため、同年齢の学生が昭和22、23年度の2年にわたり、蕪中と蕪一高を卒業している。

高いレベルの文武両道



教頭

伊藤 哲也

Tetsuya Ito

はじめに

新年度は、新型コロナウイルス感染拡大とともに始まりました。感染防止のための臨時休業期間、その後、学年別・クラス別の時差登校・分散登校期間を経て、今年度初めて全校生徒が登校し、三密を避けるため、テレビ放送による始業式に臨んだのが五月二十五日のことでした。その後も分散登校や短縮時間割による授業期間が続き、ようやく平常授業が再開されたのが六月二十二日のことです。失われた授業時間を補填するために例年の半分ほどに短縮された夏季休業（八月一日～十六日）を経て、猛暑日が続く中、通常の学校生活が再び始まり、今日に至っております。依然として終息の目途が立たないこのコロナ禍の中、ますます意義深い存在となったのが本校の校訓「百折不撓」です。この精神を心の支えに、コロナに怯むことなく、文武両道に邁進する葦高生の様子をお伝えします。

進路実績

昨年度卒業生二百三十二名の合格実績は、国立大学三十三名、公立大学三十名、私立大学二百四名、短期大学十四名、専門学校四十六名、就職四名です。特筆すべきは、過去五年連続で国公立大学への合格者数を伸ばしているということです。進学先には、地元の山梨大学、山梨県立大学、都留文科大学をはじめ、臨県の信州大学、静岡大学、埼玉大学、そして、旧帝大の一つである北海道大学、東京大学（本校では十二年ぶりの現役合格）などの超難関大学も名を連ねています。

部活動

運動部十七種、文化部十四種、同好会二種、合計で三十三の部があり、例年同様、生徒の加入率は九割を超えています。残念ながら今年度は、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が中止、全国高等学校総合文化祭（総文祭）はWEBでの発表・交流による開催となりました。また、感染防止の観点から日常の活動も制限される厳しい状況ではありますが、多くの葦高生が勉強と部活動の両立に果敢にチャレンジしています。ここでは昨年度の主だった成績と、今夏、代替大会として行われた夏季体育大会の結果の一部を紹介します。

【令和元年度】

- 全国大会出場
 - ◇全国高等学校総合体育大会（インターハイ）
サッカー部、バスケットボール部（女子）、山岳部（男子）
 - ◇全国高等学校総合文化祭（総文祭）
吹奏楽部、箏曲部、物理化学部（物理部門最優秀賞受賞）、
文芸同好会
 - ◇NHK杯全国高校放送コンテスト
放送部

○関東大会出場

- サッカー部、陸上部（男子・女子）、バスケットボール部（女子）、バレーボール部（女子ビーチバレー）、水泳部、山岳部（男子）、弓道部（女子個人）放送部、写真部、環境科学部、
文芸同好会、吹奏楽部（西関東大会）

【令和二年度】

- ◇山梨県高校夏季体育大会（代替大会）
 - 陸上部（男子） 400m 1位、5000m 2位・3位、三段跳 3位
 - 陸上部（女子） 100m 3位、400m 3位、400m H 1位、4×100R 3位、三段跳 2位

おわりに

優れた理数系人材の育成に留まらず、すべての社会人に求められる科学的探究力の育成を目標に全校生徒を対象にしたスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取り組み、オーストラリアの姉妹校クロナラ高校との国際交流、NIE (Newspaper in Education: 新聞を教材として活用する学習)、地域の子育て支援・施設訪問等のボランティア活動への積極的な参加など、本校の特色ある教育活動はまだまだ多岐にわたりますが、ここでは紙面の関係で割愛させていただきました。

高校生活に彩りを添えるはずの恒例行事が中止や縮小化を余儀なくされる中、コロナに屈することなく高いレベルで文武両道を貫こうと懸命に努力する生徒たちのため、教職員一丸となって教育活動に尽力して参ります。母校愛あふれる同窓会員の皆様方のお力添えを今後ともよろしくお願い申し上げます。

コロナ禍におけるオンライン授業について



進路指導主事

手塚 清孝

Kiyotaka Tezuka

新型コロナウイルス感染拡大による突然の臨時休業が三月から始まり、新年度の四月を迎えても学校が再開される見通しが立たなかった。当初は学習課題を出して対応していたが、徐々に生徒や保護者から学習進度や受験に対する不安の声が聞かれるようになり、四月七日に管理職と分掌主任で構成される運営委員会で、オンライン授業を検討すべきだという声が上がった。「学びが止まっている状況を何とか前に進めよう」という学校長の掛け声のもと、「生徒の学ぶ機会の保障と学力の保証」を目的にオンライン授業を検討することが決まった。この呼びかけが教員の共感を得たのは、地域の拠点校として育成したい生徒の資質や能力などの共通認識がすべての教員にあったからだと思う。

進路指導係と企画研究係が中心となり、分掌や教科の代表九



教員が黒板の前で解説するものなど創意工夫されており、配信された授業動画は五〇〇本を超えた。多くの生徒が計画的に視聴し、「繰り返し視聴できる」「自分のタイミングで視聴できる」「動画を止めながら学ぶことができる」などのメリットを感じたようだ。また、契約の関係で一本の動画を十五分以内に制限したため、「集中力を保って学習を進められる」という声も聞かれた。一方で、YouTubeによる動画配信は片方向の授業であり、双方向型のオンライン授業と比較すると生徒の反応が見えてこないという弱点が浮き彫りとなった。それを補うために、今年度で全学年の導入が完了した学習支援ツール「Classi」のアンケート機能を活用する取り組みが広がり、アンケートで生徒の質問を吸い上げることで、生徒の理解度を確かめながら授業を進められるように

名からなるメンバーで「遠隔授業検討チーム」を立ち上げ、四月十日に第一回の会議を開催した。様々なオンラインツールや他校の実践事例等を分析・検討する中で、YouTubeによる動画配信が現実的かつ最善の方法だという結論に達した。十六日には動画作成に係る職員研修会を開催し、二十三日の試行配信を経て、二十七日から二・三年生を対象に本格的な配信が始まった。動画の作成や配信を通して教員同士の連携や対話が生まれ、職員室全体が「生徒のためにやろう」という雰囲気になって、蕪崎高校としてのチーム力が大幅に高まった。

授業動画はパワーポイントを映しながら解説するものや、



なり、生徒の学びを深められる効果が見られた。

今回の待ったなしで求められたICTツールの活用や試行錯誤の動画づくり、通信環境が整わない生徒に対する個別のフォローなど、教員は今までに経験したことがない状況に遭遇した。全国的にオンライン授業への取り組みは私学が先行したが、県内の公立学校では本校がスピード感をもって準備を進め、いち早くオンライン授業を導入できたことを誇りに思う。この原稿と向き合っているのは八月下旬であるが、おそらく新型コロナウイルス感染の第二波の中にある。これから突然訪れるかもしれない突発的な事態に備え、本校では通常の対面授業と双方向型のオンライン授業のハイブリッドが可能状態を整備している。そして、このようなコロナ禍の逆境をバネに、教員も生徒もどのような状況であっても「生き抜く力」を磨いていきたい。





あい・・・そんな当たり前のことが、できませんでした。もしも例年通りの部活動ができ、多くの大会や試合があったなら、生徒は何を得ることができていたのでしょうか。学園祭が実施されていたら、互いにふれあうすべての場面で、いったいどれだけのことを学ぶことができていたのでしょうか。

確かに現代の世の中で、要領よく、効率よく、目的地に向けて間違ふことなく一直線に到着することは大切です。しかし、今の

生徒たちに必要なのは、「目的地」だけでしょうか。いろいろなものの中で、人は成長し、大人になっていきます。変わっていくきっかけにもなるでしょう。コロナ禍において、変えていくものと、変えてはいけないものに気づき、もう一度取り戻すべきものを見つけられました。「生徒会」とは何なのでしょう。何のためにあるのか、生徒たちと距離を置いたソーシャルディスタンスの中で、考えることができました。

「距離」をとるということ



生徒会指導主任

松田 頼樹

Yoritatsu Matsuda

ソーシャルディスタンス、リモートワーク、オンライン・・・この半年の間に、聞きなれない言葉が、身の周りにあふれました。その中で、経験したことのない生活を強いられ、生徒も教員も、みな困惑していました。授業の進め方、集会の形式、行事の省略、文字通り生徒との向き合い方が変わりました。その中で、新たなことも分かりました。今まで、いかに余計な作業が多かったかということもその一つです。一堂に会する集会を、クローラーの効いた教室で行うことも可能であり、熱中症予防にもなりました。わざわざ遠くまで出向いていた顧問の会議も、パソコンを通して実施でき実に経済的でした。オンライン授業ともなれば、なにしろ、登下校も安心で、通学時間も不要で、登校しなくても授業ができ

効率的であることもわかりました。これで充分ではないかという確認と、こんなこともできるといふ発見がありました。しかし、このような安全で経済的で、効率の良い生活が、いつまでも続いてくれることを、誰も心の底から望んではいないのも事実でした。「生徒」とは、「いたずらに「生きる」と書きます。いたずらには、むやみにがむしゃらにという意味です。ケガをする中で、ケガをしない方法を見つけます。相手を叩き、叩き返されることでその痛みを知ります。遠回りをする中で、離れたところから近道があることに気づくのです。その、ケガをする、相手を叩く、遠回りをするということが、「いたずらに」生きるということではないのでしょうか。そう考えると、この半年間は、その部分を尽くカットし、安全で効率よく過ごしています。つまり、生徒たちは、「生徒」らしく生活できていなかったということでしょう。

学校とは何のためにあるのか、この数か月の間に考えさせられました。生徒の笑顔はどこから生まれるのか、笑い声はどこから聞こえるのでしょうか。学校が始まって半年が経つ今となっても、教員たちは、生徒（特に一年生）のマスクを取った素顔を、学生証用に撮影した写真でしか見たことがありません。マスクを取って顔を見せ合い、声を出して大声で笑い合い、手袋を取ってふれ

足跡～活動記録～

◎1月6日
中国（武漢）で原因不明の肺炎発生

◎1月14日
WHOが新型コロナウイルスを確認

◎1月16日
国内で初めて感染確認

◎1月30日
WHO「国際的な緊急事態」を宣言

▶2月3日
クルーズ船が横浜港に入港

◎2月27日
政府が全国の学校に臨時休校を要請

◎3月6日
山梨県で初感染を確認

◎3月24日
東京五輪・パラリンピックの延期を決定

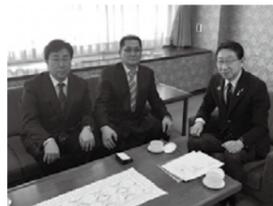
■令和2年1月25日（土）ホテル舟山
第34回卒業生の大懇親会
令和2年度同窓会開催に先立ち8クラス
合同の総会と大懇親会を開催
総会・懇親会には98名が参加



■2月3日（月）第一回例会
会場：葦高朋来館
委員会ごとの打ち合わせを実施
親善招待サッカー委員会
葦崎親善ゴルフ大会委員会
記念誌・HP委員会



■2月21日（金）表敬訪問
野口実行委員長と宮沢副
実行委員長が進藤同窓会
長と葦崎高校飯田校長先
生を訪ね、ご挨拶



（右側 進藤会長）



（左側 飯田校長先生）

■3月2日（月）第二回例会
会場：葦高朋来館



■3月26日（木）親善ゴルフ大会委員会会議
会場：葦崎市役所別館301会議室
ゴルフ大会開催通知の発送文書準備
通知封入作業等



特集
2

絆 葦高は今

私は、第七十二期の生徒会長を務めています。今年の同窓会誌のテーマが「絆」ということで、コロナ禍での絆について書こうと思います。



3学年

矢吹 輝実

Terumi Yabuki

生徒会長

長引く新型コロナウイルスの影響は私たちの高校生活に大きな空白をもたらしました。県総体、インターハイなど三年生の活躍の舞台も中止となり、「なぜ今年なのか」、今年でなければ、「涙と悔しさをグッとこらえる仲間の言葉が重く残ります。「活躍の舞台がなくなってしまう全校生徒が全力で楽しめる場を設けたい。」という思いで、私たち七十二期生徒会も今年度の葦葉祭に向けて昨年度から活動してきましたが、生徒会最大行事の葦葉祭も中止となりました。葦葉祭の中止を知った時、今までの努力が水の泡になってしまった悔しさと悲しさがこみ上げてきましたが、「嫌だ」とも、「なぜですか」とも言わずに黙っ

て聞くことしかできませんでした。そんな私を支えてくれたのは、生徒会役員の仲間、クラスの仲間です。コロナ禍のなかでも変わらなかつたのは、お互いに支え合い、仲間と協力する葦高生の絆の強さだと思います。葦高生の強みである絆の強さは、コロナ禍の生活の中で希望の光となっています。今、私たちは何かのイベントが中止になった時、何もかもコロナの影響だと言ってしまう気がします。その感覚に感染してしまうことが何より恐ろしいことだと思います。コロナだからできないのではなく、今年だからできることがきつとあるはずです。「今年でなければ」とマイナスに考えるのではなく、「今年でなければ学べないことは何か」とプラスに考え、これからも学校生活を過ごしていきたいです。



今年でなければ学べないこと

◎7月22日
GoToトラベル
キャンペーン始
まる

◎7月29日
岩手県で初感染
確認

◎8月11日
世界の感染者が2
千万人を突破

◎8月26日
山梨県内の感染
者が170人を超
える

■7月11日(土) 韮崎大村美術館
野口実行委員長より大村智博士へ
寄稿文のお願い



■7月13日(月) 第五回例会
会場：韮高朋来館
寄附金の状況ほか
各委員会からの報告
総会、懇親会委員会 中止広
告の掲載
記念誌作成委員会



■8月11日(火) 第六回例会
会場：韮高朋来館
韮崎高等学校同窓会実行委員
会の補正予算
活動記録誌の掲載内容について



■9月28日(月) 第七回例会
会場：韮高朋来館
最後となる例会で振り返りと同窓会実行委員会の締め

◎3月29日
志村けんさんが
感染症により死
去

◎4月7日
7都府県に緊急事
態宣言

◎4月16日
全国に緊急事態
宣言

13都道府県は特
別警戒都道府県
に指定

◎4月18日
国内感染者1万
人突破

◎5月14日
39県で緊急事態
宣言を解除

◎5月20日
夏の全国高校野球
大会の中止決定

◎5月25日
全国で緊急事態
宣言を解除

■4月5日(日) 臨時会
会場：韮崎市役所別館 駐車場
(感染予防のため屋外にて)
第三回定例会を前に急遽、開催
ゴルフ大会の中止を決定



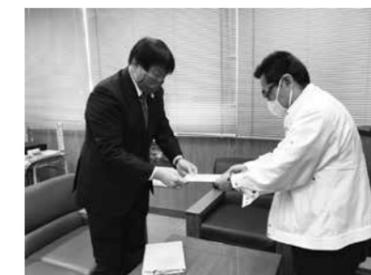
■4月19日(日) 第三回例会
会場：韮崎市役所別館 駐車場
(感染予防のため屋外にて)
当初予定の13日から19日へ
変更し、開催全事業の中止を決
定(総会については同窓会事務
局事業でもあるため要相談)
記念誌のあり方や寄附金につ
いて検討



■5月9日(土) 執行部会
会場：韮崎市役所別館301会議室
(感染予防のため執行部のみ)
事業中止要請経過の確認と
今後について協議



■5月23日(金)
韮崎高等学校を訪問し、事業中止要請書を提出



■6月12日(金)
同窓会中止を関係者へ通知
(711通)



■6月28日(日) 第四回例会
会場：韮高朋来館
記念誌委員会として、活動の
記録を残すための「活動記録
誌」作成検討



私たち、第34回韮崎高等学校卒業生は、令和2年度韮崎高等学校同窓会当番幹事として、令和2年1月25日、ホテル舟山で、同期卒業生の同級会を盛会に開催し、一人ひとりが実行委員として、同窓会活動に積極的に関わっていくことを確認しました。

「さあ、ここから始まる」となった矢先のコロナ禍で、感染、拡大防止に社会全体での取組みが欠かせないことから、やむなく各事業を中止することとなり、再会の場としても楽しみにされていた皆様に、このことを伝えなければならないことを残念に思いながら、事業中止通知の発送作業を行いました。

10年前にサブ幹事として同窓会事業に関わり、令和2年度は当番幹事本年ということで、卒業以来、顔を合わせる同級生もいましたが、その空白の時間は存在しなかったことのように、懐かしさもこみ上げる中で気勢も上がっていただけに、各事業を行えなかったことは痛恨の極みです。

私たち、令和2年度当番幹事の活動は、記念誌にのせて記録していきますが、韮高同窓会は、会員の強い絆のもとに今後も続いていきますので、皆様の変わらぬ応援をよろしくお願いいたします。

令和2年度韮崎高等学校同窓会実行委員会 委員一同

令和元年度 同窓会一般会計決算書

収入の部 (単位：円)

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
繰越金	235,648	235,648	0	
入会金	245,000	250,000	5,000	全日制 232 人、定時制 18 人
会費	1,000	0	-1,000	
繰入金	12,400,000	2,400,000	-10,000,000	基本金会計より繰り入れ
寄付金	500,000	500,000	0	元年度実行委員会より
ホームページ管理費	200,000	200,000	0	年度更新負担金として(元年度実行委員会より)
雑収入	52	5	-47	預金利息
合計	13,581,700	3,585,653	-9,996,047	

支出の部 (単位：円)

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
事務費	150,000	35,239	-114,761	通信費、宛名ラベル等事務用品
人件費	2,000,000	2,000,000	0	職員給与
ホームページ管理費	200,000	200,000	0	ホームページ年間維持管理費
特別事業費	10,000,000	0	-10,000,000	
会議費	35,000	32,644	-2,356	理事会、役員会
歓迎費	200,000	192,875	-7,125	同窓会新入会員記念品代
表彰費	30,000	29,540	-460	感謝状
渉外費	150,000	180,584	30,584	広告、支部総会
慶弔費	150,000	198,702	48,702	餞別金、香典他
奨励費	600,000	600,000	0	就学奨励金 10 万円×6 人(各学年 2 名)
旅費	10,000	0	-10,000	
雑費	6,000	0	-6,000	
予備費	50,700	50,000	-700	ホームページ修正費
合計	13,581,700	3,519,584	-10,062,116	

収入合計 3,585,653円

支出合計 3,519,584円

差引残額 66,069円(次年度繰越金)

令和元年度収支執行状況について監査したところ適正に処理されていたことを認めます。

令和2年4月30日

監事 水川 勉 ㊟
水川 秋人 ㊟
浅川 文明 ㊟

令和元年度 葦崎高等学校同窓会会務報告

平成31年	4月	6日	入学式
令和元年	5月	9日	会計監査
	5月	16日	葦葉親善ゴルフ大会
	5月	24日	第1回常任理事会
	8月	25日	同窓会記念招待サッカー(vs清水東高校)
	9月	6日	創立記念行事(永年勤続表彰)
	9月	6日	第2回常任理事会
	9月	8日	総会広告掲載(山梨日日新聞紙上)
	9月	15日	同窓会総会・懇親会
	11月	6日	総会会計監査
	11月	9日	東都同窓会総会(会長他出席)
	11月	12日	第3回常任理事会
	12月	13日	同窓会就学奨励金給付式
令和2年	2月	28日	令和元年度卒業生同窓会入会式
	3月	1日	令和元年度高校第70回卒業式

令和元年度 葦崎高等学校同窓会事業報告

第41回葦葉親善ゴルフ大会

期日 令和元年5月16日(木)

会場 カントリークラブ・グリーンバレー(葦崎市穂坂町)

- ・参加者 195名
- ・事業費 986,726円

親善招待サッカー試合

期日 令和元年8月25日(日)

会場 葦崎中央公園陸上競技場

- ・招待チーム 清水東高等学校
- ・試合結果 2対0(勝利)
- ・事業費 444,938円

令和元年度同窓会総会・懇親会

期日 令和元年9月15日(日)

会場 アピオ甲府

- ・参加者 約598名(当番幹事125名)
- ・アトラクション
 - ・葦崎高等学校吹奏学部(演奏)
 - ・チームドロップス(ダンス)
- ・事業費 5,538,291円

令和元年度 蕪崎高等学校同窓会実行委員会収支決算報告

収入の部 (単位：円)

項目	収入額	備考
準備金	818,656	前年度繰越金
ゴルフ準備金	1,000,000	前年度繰越金
広告	10,082,100	561件
チケット	4,368,000	1,456枚×3,000円
当番幹事協力金	300,000	
ゴルフ大会参加費	780,000	195人参加×4,000円
雑収入	106,025	お祝い金、利息他
合計	17,454,781	

支出の部 (単位：円)

項目	支出額	備考
総務費	事務消耗品費	35,341 振込取扱票、事務用品
	通信運搬費	343,921 郵送料、切手、葉書
	会議費	0
	印刷製本費	2,237,598 記念誌1,500部、チケット、封筒印刷他
	振込手数料	171,065 ゆうちょ銀行他
(総務費合計)	2,787,925	
事業費	総会・懇親会費	3,698,582 会場費、飲食費、バス代、司会者等
	総会記念品費	665,280 フェイスタオル他
	アトラクション費	405,920 吹奏楽部、演舞謝礼他
	福引景品費	414,509 懇親会福引景品
	広告料	354,000 山梨日日新聞、蕪崎ジャーナル
	ゴルフ大会	986,726 蕪葉親善ゴルフ大会運営費
	サッカー大会	444,938 招待親善試合運営費
諸経費	105,380 法被クリーニング代	
(事業費合計)	7,075,335	
諸費	次年度幹事等助成金	70,000 サブ幹事活動費助成
	教育振興資金	3,000,000
	本会基本会計助成金	500,000
	ホームページ保守管理費	200,000
	サッカー後援会助成金	900,000
	創立百周年記念事業寄附金	1,000,000
次年度ゴルフ大会準備金	500,000 (次年度繰越)	
(諸費合計)	6,170,000	
合計	16,033,260	
次年度繰越金	1,421,521	

上記のとおり報告いたします。

令和元年度蕪崎高等学校同窓会実行委員会
実行委員長 竹井 幹

令和元年度蕪崎高等学校同窓会実行委員会会計について監査したところ適正に処理されていたことを認めます。

令和元年11月6日

監事 水川 勉 (印)
水川 秋人 (印)
浅川 文明 (印)

令和元年度 同窓会特別基本金会計報告

収入の部 (単位：円)

科目	決算額	備考
前年度繰越金	39,298,360	
積立金	2,426,400	3年232人×2,600円=603,200円 定時制18人×9,800円=176,400円 1.2年456人×3,600円=1,641,600円 (2年未納者1名) 2年2人×2,600円=5,200円 (前年度未納分)
雑収入	3,208	利息
合計	41,727,968	

支出の部 (単位：円)

科目	決算額	備考
繰出金	2,400,000	一般会計繰出金
合計	2,400,000	

特別基本金合計 41,727,968円
元年度繰出金 2,400,000円
差引積立金現在高 39,327,968円 (次年度繰越積立金)



第18回蕪葉祭



蕪高第34回卒業
当番幹事
卒業アルバムより
PART1



生徒会本部役員

令和2年度 同窓会一般会計予算書（案）

収入の部 (単位：円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備考
入会金	245,000	245,000	0	全日制 227 人、定時制 18 人
会費	1,000	1,000	0	
繰入金	12,400,000	12,400,000	0	基本会計基金より繰り入れ
寄付金	500,000	500,000	0	2 年度実行委員会より
ホームページ管理費	200,000	200,000	0	2 年度実行委員会負担金
繰越金	66,069	235,648	-169,579	
雑収入	31	52	-21	
合計	13,412,100	13,581,700	-169,600	

支出の部 (単位：円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備考
事務費	100,000	150,000	-50,000	通信費、事務用品
人件費	2,000,000	2,000,000	0	職員給与
ホームページ管理費	200,000	200,000	0	ホームページ年間維持管理費
特別事業費	10,000,000	10,000,000	0	百周年記念事業立替金
会議費	30,000	35,000	-5,000	理事会、役員会
歓迎費	190,000	200,000	-10,000	同窓会新入会員記念品代
表彰費	1,000	30,000	-29,000	
渉外費	130,000	150,000	-20,000	広告、支部総会
慶弔費	100,000	150,000	-50,000	お餞別、香典
奨励費	600,000	600,000	0	就学奨励金(10万円×6人)
旅費	5,000	10,000	-5,000	
雑費	6,100	6,000	100	
予備費	50,000	50,700	-700	
合計	13,412,100	13,581,700	-169,600	

令和2年度 同窓会事業計画（案）

令和 2年	※ 4月 8日	入学式
	4月 30日	会計監査
	※ 5月 21日	葦葉親善ゴルフ大会
	5月 22日	第1回常任理事会（書面開催）
	7月 3日	総会・懇親会中止広告掲載 （山梨日日新聞、葦崎ジャーナル紙上）
	※ 8月 30日	同窓会記念招待サッカー
	9月 11日	創立記念行事（永年勤続表彰）
	※ 9月 11日	第2回常任理事会
	※ 9月 27日	同窓会総会・懇親会
	10月 1日	第3回常任理事会（変更）
令和 3年	10月 1日	正副会長、当番幹事（本年度・来年度）会議
	12月 16日	同窓会就学奨励金給付式
	2月 28日	令和2年度卒業生同窓会入学式
	3月 1日	令和2年度高校第71回卒業式

※新型コロナウイルス感染症対策のため中止

葦高第34回卒
当番幹事
卒業アルバムより
PART2









同窓会協賛者

- 市川建設(株)
 (有) 岩下建設
 (有) 甲斐タクシー
 (株) 上村建設
 カミムラスポーツ
 関東電設(株)
 菊島設備(株)
 旭陽電気(株)
 栄工業(有)
 志村建設(株)
 写真のしんかい
 (有) 伸興電気
 (有) 須玉三共タクシー
 (株) 滝田電気商会
 ヘアーサロン チノ
 (株) 内藤ハウス
 (株) 七星建設
 (株) 日設管興
 (有) 葦崎タクシー
 (有) 平賀工業所
 飛天
 深澤工業(株)
 (株) プロヴィンチア
 (有) 細田工務所
 (株) まあめいく
- (有) マスイチ電気商会
 (有) 村松電気商会
 山梨峡北交通(株)
 山梨県民信用組合 葦崎支店
 横森電気工事(有)
 (順不同)

同窓会寄付者

- | | | | |
|--------|------|-------|------|
| 鈴木 保巳 | 中十九 | 小尾 公仁 | 高三十五 |
| 堀内 のり子 | 高一 | 島袋あゆみ | 高三十五 |
| 小尾 一也 | 一高一 | 松坂 千加 | 高三十五 |
| 保坂 静雄 | 高二 | 小林ちまり | 高三十五 |
| 清水 武則 | 高二 | 横内 理香 | 高三十五 |
| 藤嶋 英毅 | 高五 | 小林 一夫 | 高三十五 |
| 伊藤 洽子 | 高六 | 由井 克光 | 高三十五 |
| 根岸 正巳 | 高七 | 保坂 由美 | 高三十五 |
| 山寺 健二 | 高九 | 越石 宏幸 | 高二十九 |
| 清水 正雄 | 高一 | 有泉 祐希 | 高五十五 |
| 高木 建夫 | 高一 | 川合 航平 | 高六十五 |
| 山寺 育三 | 高一 | | |
| 宮澤 瑞美 | 高一 | | |
| 田中志津江 | 高十六 | | |
| 進藤 中 | 高十七 | | |
| 保延 実 | 高十七 | | |
| 保坂 辰男 | 高二十二 | | |
| 岩下 和彦 | 高二十三 | | |
| 高添富士雄 | 高二十四 | | |
| 市川 成人 | 高二十五 | | |
| 酒田 大輔 | 高二十五 | | |
| 藤巻 明雄 | 高二十六 | | |
| 守屋 久 | 高三十 | | |
| 川手 貴 | 高三十五 | | |
| 広瀬 浩 | 高三十五 | | |
- 山梨中央銀行内OB一同
 第二十一回卒業生一同
 第二十六回卒業生一同
 第二十八回卒業生一同
 第二十九回卒業生一同
 第三十回卒業生一同
 第三十二回卒業生一同
 第三十三回卒業生一同

令和2年度 同窓会特別基本金会計予算書(案)

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	備考
前年度繰越金	39,327,968	
積立金	2,426,200	3年225人×2,600円=585,000円 定時制18人×9,800円=176,400円 1.2年460人×3,600円=1,656,000円 2年2人×2,600円=5,200円(前年度未納分) 1人×3,600円=3,600円(前年度未納分)
雑収入	3,832	定期預金利息等
合計	41,758,000	

支出の部

(単位:円)

科目	予算額	備考
繰出金	12,400,000	一般会計繰出金及び百周年記念事業立替金
次年度繰越金	29,358,000	
合計	41,758,000	



葦高第34回卒
当番幹事
 卒業アルバムより
 PART3











第34回卒当番幹事

浅川 小百合 小池 惠美子 井上 陽子 安達原 里美 旗持 芳美 望月 祐子 横内 弘樹 山本 健二 藤原 直樹 平賀 広樹 野口 和仁 成島 勇次 名取 元之 名取 克正 鷹野 克也 鈴木 浩幸 志水 宏行 清水 秀樹 桜田 光人 窪田 由紀彦 上村 和雄 碓井 浩明

【三年一組】

花輪 まゆ美 加賀美 由香 木内 ふたみ 渡辺 さつき 石川 明美 佐々木 明美 向山 ゆかり 清水 美香 佐野 かおり 東 晶代 小林 佳代子 清水 千春 仲田 ゆかり 大橋 芳美 清水 博美 小林 真由美 奥山 すみ子 三井 千浪 栗山 めぐみ 上田 喜久子 山本 仁美

岩下 佳樹 岡本 優司 小澤 英紀 金澤 祐一 功刀 修 興石 弘司 五味 桂一 新海 弘人 田中 通也 内藤 和彦 中沢 正光 保坂 常一 保坂 己知夫 三井 喜巳 八代 真一 荻野 恵 新井 かおり 嵩井 みどり 矢ヶ崎 恵美 重田 直美 野呂瀬 圭子 興石 昌子

【三年二組】

小林 マリ 新田 きよ子 近藤 錦 遠藤 さつき 鹿野 恵 高橋 和子 菊原 千草 中村 尚美 新井 英美 丹沢 由美 市川 理恵 菊池 淳子 中村 りえ子 塩澤 由美子 永石 みか 倉鹿野 夕香 武石 ゆう子 小林 京子

飯野 敦 石川 公一 小沢 三紀夫 興石 秀樹 興石 芳夫 高橋 良二 中田 和成 野口 正人 花輪 孝 松原 啓二 三井 健二 宮沢 和仁 矢崎 収 柳本 泉 山下 力 山田 江美 石井 明美 佐藤 美由紀 小林 きくえ 土屋 清美 山田 真弓 松岡 静枝

【三年三組】

令和2年度 葦崎高等学校同窓会実行委員会名簿

実行委員長

- 〳 副委員長
- 〳 事務局長
- 〳 副事務局長
- 〳 事務局
- 〳 会計責任者
- 〳 会計副責任者

葦葉親善ゴルフ大会委員長

- 〳 副委員長

親善招待サッカー委員長

- 〳 副委員長

記念誌編集・HP委員長

- 〳 副委員長

総会・懇親会委員長

- 〳 副委員長

チケット販売委員長

- 〳 副委員長

広告・協賛金委員長

- 〳 副委員長

野口 正人 小池 惠美子 興石 秀樹
 宮沢 一穂
 今福 治
 千野 晃
 樋口 治元 横森 弘樹 長谷川尚樹
 岩下 佳樹
 植田 礼子
 興石 秀樹
 長谷川尚樹
 飯野 敦
 今福 治
 仲田 太年
 保坂 哲男
 野澤 常男
 樋口 治元
 興石 大親
 横森 弘樹
 新海 弘人
 千野 晃

■クラス連絡員

- (1組) 奥山すみ子 小池 惠美子
- (2組) 岩下 佳樹 五味 桂一 重田 直美
- (3組) 長田 邦江
- (4組) 栗林 俊浩 大須賀 総美
- (5組) 横森 弘樹 仲田 太年
- (6組) 宮沢 一穂 長谷川 尚樹 中村 早苗
- (7組) 野澤 常男 仲田 素子
- (8組) 今福 茂樹 古屋 勝 植田 礼子 奥田 日出美

中澤 晴美
横山 福美
向井 きよ
白倉 育江
葛木 珠巳
野口 さゆり
田辺 加代子
長田 邦江
近藤 正子
五味 好美
塩澤 小百合
保坂 郁子
飯野 仁巳
深澤 小百合
近津 祥子
千野 恵美
雨宮 早苗
吉川 美保

【三年四組】
小沢 宏之
小幡 俊英
栗林 俊浩
小池 勇樹
輿石 政仁
輿石 大親
小林 実
五味 正宏
末木 明人
千野 克仁
所 一成
樋口 治元
平川 操
古屋 浩
堀井 彰
横森 正己
村上 美由紀
三澤 ちさと
伊藤 美江
猪股 清美
原 久美子
大須賀 総美

森本 千尋
長田 喜志子
樋口 松江
岩瀬 清子
河西 恵美子
宮沢 文子
窪田 恵子
保坂 あや子
森 千浪
鈴木 礼子
土橋 美恵
内藤 幸美
丹沢 明美
竹井 ひとみ
相羽 英子
石坪 欣子
宮本 恵子
佐々木 志づ江
坂口 みさき
名取 小百合

【三年五組】
赤坂 浩二
浅川 聡
川口 寛人
中込 繁隆
小林 俊一
小林 巧
篠原 弘樹
清水 克己
三井 孝宏
仲田 太年
細田 忠正
向山 久也
山本 澄人
湯澤 康
横森 弘樹
小澤 みはる
内池 美穂子
初鹿 たゆ美
宮澤 美鈴
井上 久子
猪股 奈津美
中町 ひとみ

山田 美和
内山 真弓
内田 百合香
藤井 ゆか
長田 容子
三枝 恭子
青木 奈津江
杉浦 恵美
高橋 美香
白倉 政美
武田 かおる
有泉 和子
中込 裕子
雨宮 由紀子
小田川 ゆみ
関本 美江
小菅 留美
小林 由美
八代 明美
伏見 真由美
山寺 恭子
泉谷 薫

【三年六組】
上野 洋
春日 秀一
川手 賢治
輿水 英次
小林 芳昭
島津 美樹
清水 道晃
田原 忠彦
土屋 城二
中嶋 剛
長谷川 尚樹
藤森 孝
宮沢 一穂
山本 健二
由井 正昭
名取 典子
吉川 潤子
中村 早苗
須藤 裕美
小林 代美
遠藤 和美
窪田 智美

小尾 芳
小林 由香
桐山 千波
齊藤 久美
山口 美紀
板山 佳世子
名取 里香
石塚 みきこ
小澤 晴子
高橋 直子
土橋 純子
榎本 美保
戸嶋 礼子
丸山 由起子
鶴田 道江
草間 正子
佐藤 実枝
雨宮 和代
丸山 要子
三枝 一江

【三年七組】
秋山 秀哉
浅川 義二
今福 治
大澤 俊博
小野 泰央
岸本 孝
五味 省二
齊藤 政美
柴崎 一彦
清水 秀和
清水 博仁
白倉 信一
高山 岩男
千野 晃
内藤 和彦
仲澤 義仁
中田 浩史
入戸野 高章
野澤 常男
野田 保彦
古屋 礼二
広瀬 章彦

福田 浩
伏見 幸男
保坂 哲男
保坂 浩人
松坂 人支
三井 清史
三井 英昭
宮沢 一雅
向山 寛
向山 幹和
望月 一秀
望月 泰
八代 光央
箭本 篤
横森 幸夫
雨宮 寿樹
仲田 泰子
宮澤 真澄
深町 初美
伊藤 純子
白倉 美紀
秋山 千寿

【三年八組】
相山 哲也
浅川 明彦
石原 一仁
井上 勝馬
井山 晴仁
今福 茂樹
上野 健二
小沢 宏一
小野 重巳
金丸 悟
菊島 和仁
久保田 健一
小林 致
坂本 清彦
坂本 新次
坂本 幸生
篠原 秀俊
清水 英一
清水 利一
新藤 光彦
中込 一彰
中島 直史

中村 茂
長久保 誠
野出 孝文
藤原 幹生
藤卷 秀行
古屋 勝
増坪 広夫
向山 直樹
矢崎 英夫
柳本 良二
山田 浩由
山本 哲也
横森 文人
奥田 日出美
矢田部 あつ子
本間 利江
清水 理枝
高橋 佳子
中川 直美
神戸 不仁代
霜村 かおり
植田 礼子
萩原 まゆみ

【物語者】
山田 安正
土屋 司
平川 忠
對川 裕美子
中山 讓
篠原 和美
赤坂 久美子
宮崎 由理
鈴木 一
広瀬 義人

編集後記

多くの皆様のご協力により、ここに令和二年度韮崎高等学校同窓会記念誌を発行できますことを、編集委員一同心より感謝申し上げます。

今年度の同窓会事業は新型コロナウイルス感染拡大によりほとんどが中止となりました。この記念誌作成につきましても、例年通り刊行すべきか否か、各方面から多数ご意見をいただきました。総会や懇親会が中止となり、例年行ってきた協賛金や寄付金、広告等あるいはチケット販売の収入がない中で、果たして記念誌を作成することができるのか。様々な同窓会事業が中止になる中で、中身のある冊子に仕上がるのか。そもそも作成に意味があるのか。厳しいご意見をいただきました。

しかしそのような中で、私たち当番幹事の間では作成に前向きな意見も根強くありました。昨年の秋より実行委員会を発足し、1月に行われた第三十四回卒業生同級会など、ここまで活動してきた自分たちの「足跡」は残しておくべきではないか、このような厳しい状況下だからこそ県内外で活躍されている同窓の皆さんに寄稿していただくことは意義あることだ、私たち第三十四期卒当番幹事の作成に向けた熱い想いは益々強くなるばかりでした。また、同窓会長進藤中様、韮崎高校校長飯田春彦先生にも、記念誌の作成にあたっての趣旨をご理解いただき、励ましのお言葉をいただいたことは大きかったです。

作業開始当初は作成することに意義があるので、「お金がないのならコピー用紙のホチキス止めで」と委員の中では考えていました。しかし、どうせ作るのなら立派なものを残したい、その気持ちから仲間たちが寄付金集めに奔走してくれました。実行委員会定例会において「大村智博

士に寄稿文をお願いしたらどうか」という意見にすぐに対応してくれた仲間もいました。いろいろと忙しい合間をぬって、アポ取りから原稿依頼まで全てを引き受けてくれました。困ったときに手を差し伸べてくれる仲間のありがたさを感じました。そして、寄稿いただいた大村先生原稿を拝見し感激しました。このような国難の局面に立ち、ノーベル賞受賞後も今なお研究に邁進されている大村先生のお姿に、畏敬の念を感じるとともに元気をいただきました。この冊子を手にとってご覧になる皆さまにおかれましても、大村先生をはじめ寄稿していただきました全ての皆様の力強くそして心温まる内容をご堪能いただけるものと思っております。

最後になりましたが記念誌刊行にあたりましてご協力いただいた関係者の皆様に深くお礼申し上げます。今後益々の同窓生のご健勝と、韮崎高校、そして同窓会の発展を祈念しまして編集後記といたします。

記念誌編集委員長

仲田 太年

副委員長

保坂 哲男

委員

今福 茂樹

植田 礼子

小池 恵美子

百折不撓——令和二年度同窓会記念誌

令和二年九月二十八日 発行

発行人 山梨県韮崎高等学校同窓会

山梨県韮崎市若宮三丁目二一

(韮崎高等学校)

電話 〇五五一—二二—二四一五

編集・デザイン 窪田いくみ(第60回卒業生)





蕪崎中学校

蕪崎高等女学校

蕪崎第一高等学校

蕪崎第二高等学校

蕪崎高等学校

編集

蕪崎高等学校同窓会・高34回卒業生
蕪崎市若宮3丁目2-1 (蕪崎高等学校内)

電話：0551-22-2415

<http://www.nirasaki-ole.jp>